

いのちをつなぐ医療チーム

院内臓器提供体制の構築と普及を目指して

国内の移植医療を巡る現状

- 現在、国内の移植待機患者数は16,000名
- 実際に臓器移植を受けられる患者さんは、年間わずか100名前後

当院の立ち位置

- 都内でも有数の高度急性期医療機関
- 救急・集中治療では、最善の医療を施しても救命困難なことがしばしば

医療者と家族が直面する葛藤

患者 A

生きたいと強く願う
患者さんとその家族

患者 B

最善を尽くしても
救命困難な状況に
悩む家族と医療者



両者の葛藤を解決しうるのが、
いのちをつなぐ医療すなわち移植医療

いのちをつなぐ医療チーム

- 厚労省は、臓器提供・移植の体制作りを進めている
- 当院でも2025年度に院内多職種から構成されるワーキングチームを結成

チームメンバー

職種	メンバー（敬称略）
医師	9名
看護師	10名
臨床工学	1名
検査	2名
心理士	1名
事務系	3名

活動内容

- 院内臓器提供体制の構築
 - ・ 脳死判定・臓器提供マニュアルの作成
 - ・ 実施時の体制整備
 - ・ 提供患者・家族の権利保護や心のケア
 - ・ 医療者への心のケア
- 院内職員や一般市民向けの知識普及
 - ・ 講演会
 - ・ TQM活動
 - ・ 院内外での広報活動

当院における角膜提供事例

- 維持透析中だった20代女性
- 脳出血から神経学的に予後不良
- 患者ご家族から臓器提供の申し出あり
- 心停止後に角膜提供(当院で初めてのケース)